

aiameguyuu さんの体験記第 20 話です。

3 月。母が今度は荷入れの手伝いに来てくれた。

でもほとんど兄夫婦がやってくれていたんで、あまりすることはなかった。

疲れただろうと家事を手伝ってくれ、すこしづつ片づけをしていた。

この数日後、旦那の友人の結婚式に滋賀に家族で招待されていた。

母も義理の母も小さい僕を連れてまで行くことはないといったけど、

披露宴をしていない私たちはお互いの友人になかなか会えない。

特に旦那の友達は県外に点在しているので、こんなことでもないと会うことがない。

そこで、どうしても出席したいと思っていた。

少し不安はよぎるが、先生にも相談していくことにする。

披露宴はアットホームで楽しいものだった。

友人たちに顔見せできたことが、本当に良かった。

一泊して京都の二条城に観光して帰る。

二歳前の子を連れての旅行は荷物も多くて大変だったが、

なんとかこなせてよかった。

無事の帰宅を父母に連絡する。

しかし。。。

再発することとなる。

次の日の朝、保育園に僕を送らないといけなかったのだが、

布団から出られないのだった。体が重くて動かない。

もしかして、、、そんなはずはない。

この一年元気に暮らしてきたではないか。

でも動けないので義母に電話して、保育園に僕を送ってもらう。

急なことなのにすぐに駆けつけてくれた。

ゆっくりしとき。と言われて布団に横になる。

起きれるんだろうか。。

夕食の準備なんてとうていできそうもない。

ため息をつきながら昼を過ごすと、午後義母から電話がある。

晩御飯もつくれないだろうから実家にみんなできたら。というのだ。

確かにお迎えも晩御飯もできそうにない。

何日かお世話になるつもりで僕の保育園の帰りに迎えに来てもらうことにした。

実家の二階でねかせてもらう。

どうしてこんなことになったのだろう。

やっぱり結婚式の出席が無理だったのだろうか。

思い頭でぼおっと考えながら過ごす。

母に電話する。

驚いていたが、体調が悪いならまた実家に戻ってきたらと言う。

そんなにひどくはなさそうなので、何日かここでお世話になろうと思うことを伝えた。

病院にも行った。薬を少しふやされただけだった。

やっぱり薬物に頼るしかないのかとがっかりした。

そして数日。。

一向に回復の兆しが見えない。

母から電話がある。迎えに行くから帰りなさいと。

確かに1週間くらいで治る状況ではないと思った。

再発したのだ。

それならば、実家でゆっくり治したほうがいい。

帰ることにした。旦那の父母が送って行ってくれることになった。

荷物をまとめて帰る。

そしてまた、長い闘病生活が始まるのだった。

(続く)